

＜中小企業の取り組み＞

魅力的な人財育成のため 社長自身の経験から機会提供 シニア・女性・外国人従業員 社員全員スキルアップ 無駄省き、空いた時間を有効活用 オンオフとも良い影響

オーダーメイドシャッターの設計、製造、施工業の株式会社横引シャッター(本社:東京都足立区、代表取締役:市川慎次郎)は、社内外に対し数々のユニークな取り組みを行っています。

本年度からは、社員を対象に外部講師を招き、業務改善研修を実施しています。さらに、外国人従業員には毎週月曜日午前中に語学学習を行い、社員全員のスキルアップ向上を図っています。

■内勤社員や外国人従業員にも研修促進

近年シニアや外国人の雇用促進を行う企業は増えていますが、単純労働が主です。当社は、従来型シャッターではなく特殊な横に引くシャッターの開発メーカーで、社員40人中半分は60歳以上のシニア層の技術者が在籍しています。そのため、シャッター製作時に必要な技能や溶接などの特殊技術のスキルアップには、手間と時間を惜しみませんでした。しかし、本年度からは技術者以外の男性社員6名と女性7名にも外部講師を招き、国内大手自動車メーカーが導入している5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を基とした社内研修を導入しました。また、外国人従業員2名には業務時間内の毎週月曜日の午前日本語学校に行くことを義務付けました。



社内研修の様様。同じ研修内容だが男女別になっているのは、互いのものの見方の違いを意識して

■クオリティーの高い時間確保のため、無駄省く

これらの研修は、社員には“魅力的な人財”になってほ

しいという代表市川の思いからスタートしています。市川は、経理、総務、管理の業務担当時代、様々なセミナーに行く機会に恵まれました。しかし、多くの人たちはセミナー受講などは現実的に難しく、目的や目標意識の高い人しか仕事終了後に学びに行くことはありません。長年会社勤めをして定年退職した後に、仕事以外何のとりえのない人になってしまうケースは沢山あります。サービス社会とされる今の時代、“仕事だけの人間”では生き残れません。より幅の広いジャンルに興味を持ち、自身を豊かにすることが必要です。限られた時間を有効活用するべく無駄を省き、空いた時間をよりクオリティーの高い仕事の時間や家庭双方に活かして欲しいと市川は考えて

います。そして、社員が自ずといきいきとし、社員の質が上がっていけば、結果会社の質も相乗的に上ります。まずは自社で見本をつくらうと、社員全員がスキルアップを図る機会をつくりました。

■外国人従業員受け入れに対応できる器を見込む

市川は、少子化がこのまま進むと、ものづくり現場では、今後必ず外国人労働者を雇わなければいけないと考えています。そこで、将来に備え外国人労働者受け入れに応じられる会社になるべく、去年からベトナム人労働者2名を雇用しています。彼らを日本語学校に通わせているのも、市川自身の留学経験に基づいています。市川は中国の大学に留学した際、半年もすると語学は日常的には不自由なくなり、それ以上は勉強しなくなりました。そうなると、来日した時の本来の目的を忘れてしまいます。そうならないよう外国人労働者には、自身の経験から語学研修を奨励しています。

■各社員の気づきや変化

【男性社員の場合】

●工場長代理 小林義正(左)

役職柄、部品などの購買も行っていますが、この研修を受けて気が付いたのは、在庫を多めに購入していましたが、最低限のロットで十分となりました。また、整理整頓することにより、時間もコストも節約に繋がり、より全体を見渡せるようになりました。

●営業課長 白山康志(中央)

今まで、イメージとして漠然としていたことが再認識出来、目的意識が明確になりました。社内では部下になぜこうなのか意味付けして教えるようになりました。また家庭でも気持ちに余裕が出てきました。就職活動中の息子に、会社はどういう人材を求めているのか具体的に教えるようになり、親子のコミュニケーションの内容も濃いものに変ってきました。

●設計室 鈴木健一(右)

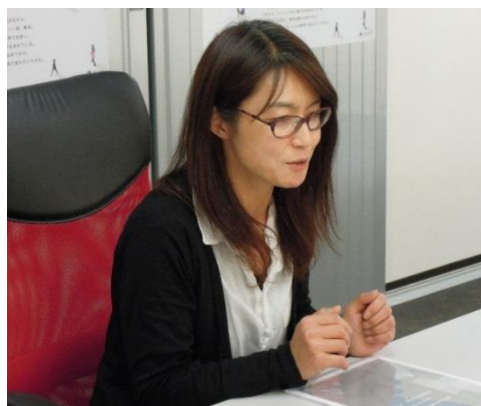
今回の5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を習得することにより、要るものと要らないものを明確したことで、自分管理は時間管理になることがわかり、己の行動を意識するようになりました。



【女性社員の場合】

●事務兼広報 川端千恵

研修内容は男性社員と一緒にですが、整理整頓し無駄を省くという点は家庭にもすぐ役立ちました。今回改めて家族の立場や目線に立って考えるようになり、物事の見方も変わりました。また、短い時間でどうやるか工夫をしようとするようになりましたし、時間の生み出し方も考えるようになりました。



【外国人従業員の場合】

3月から毎週月曜日に日本語学校に行く事によって語彙が増えました。それまでは「わからない」の一点張りでしたが、聞き返すことを覚え、コミュニケーションも円滑になりました。また、それまでは自転車で回れる範囲内の行動でしたが、実際切符を買い秋葉原にまで出かけるようになりました。先月は技能研修に合格したので、そのお祝いとしてゴールデンウィークに初めて新幹線に乗り、大阪の難波まで行ってきました。



ベトナム人のチュウ（左）とニャン（右）

男性・シニア・女性社員に対しての社内研修概要

名称： 国内大手自動車メーカー導入5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を基とした社内研修

開始月： 2016年4月

対象： 男性社員6名、女性社員7名

内容： 国内大手自動車メーカーが導入している5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を基とした社内研修を導入し、毎月男性社員は2回、女性社員は1回の研修を受講しています。

効果： 無駄を省き空き時間をクオリティの高い時間に移行させたことにより、社員のオンとオフ双方に好影響が表れました。

外国人従業員に対しての社内研修概要

名称： 日本語習得

開始月： 2016年3月

対象： 外国人従業員

内容： 毎週月曜日の午前中に日本語学校にて日本語の習得

効果： 語彙が増え、仕事ではコミュニケーションが円滑になりました。また、今まで行ったことのない場所にも行くようになり、行動範囲も広がりました。

■今後の展開

当社は従来の中小企業の暗く、汚い工場のイメージを払拭したいと、大手企業では出来ない特長ある中小企業を目指し、様々な取り組みを行っています。また、平成27年度の足立区ワークライフバランス認定企業に認定されており、従来の働き方にこだわらない働きやすい環境作りを推奨しています。当社は、これからも、社内社外問わず良いと感じたことは、積極的に取り組んでいきます。

<本件に関するお問い合わせ先>

横引シャッター広報・宣伝部 室長:井島(いじま)

TEL:03-3628-4500 FAX:03-3628-1188

メール:ijima@yokobiki-shutter.co.jp

【会社概要】

会社名 :株式会社横引シャッター
代表 :代表取締役 市川慎次郎(いちかわしんじろう)
所在地 :東京都足立区綾瀬 6-31-5
ホームページ :<http://www.yokobiki-shutter.co.jp>
設立 :1986 年 4 月 3 日
従業員 :39 名(グループ全体・2015 年 4 月現在)
資本金 :1,000 万円
事業内容 :オーダーメイドシャッターの設計、製造、施工業

当社は、1986 年の創業以来、原発・火力発電所・造幣局等、特殊な用途の施設に、防犯性と製品の信頼性を高く評価されてきました。また、現在上吊り式シャッター関連の多数の特許を保有し、特殊シャッターの分野では先駆けの企業です。

この他にも、ショッピングモールの時間差店舗の管理シャッター、個人のガレージ、雨戸シャッター等、大規模な事業、個人宅関係なく、顧客ごとにオーダーメイドで製作しています。

自社のシャッターの修繕の経験、アイデアを形にする技術、金属加工に限らずシャッター技術に必要な部位製造も自社製品でまかっています。これらが可能なのは、高度経済成長期の日本を牽引してきた職人の技が集結しているからです。

■フェイスブック :横引シャッター facebook 公開中
100005657023160@facebook.com



■足立ブランド認定 :株式会社横引シャッターの製品は、東京都足立区が優れた製品・技術と認定した足立区ブランド認定製品です。

FC ADACHI



「足立ブランド」は、足立区が区内産業の優れた製品・技術を認定し、その素晴らしさを全国に PR し、ネットワークを広げていくことで区内産業のより一層の発展と足立区のイメージアップを図ることを目的に平成 19 年度から開始した事業です。認定製品・技術には「認定ロゴマーク」が付与され、販路拡大のための PR 支援などの事業を展開し全国へアピールしていきます。

■カニ部長



: 駅の売店でお馴染みの横に引くシャッターの専門メーカー「横引シャッター」。この横に動く動作がカニを連想させる事から、オリジナルキャラクター「カニ部長」が誕生。横引シャッターの親善大使としてキャラクター商品を展開中です。

LINE スタンプ、クリアファイル、缶バッジ、等